

「ロシア語作文研究」教材：理論と構成*

高 橋 健一郎

I. 理論と構成

1. 語法研究に重点を置いたロシア語作文研究

本稿は、札幌大学外国語学部ロシア語学科の主として3、4年生を対象にした専門科目「ロシア語作文研究」の新しい教材を作成する際の理論的な土台となるものである。当学科の基本カリキュラムでは1年次にロシア語文法の基礎を学び、2年次春学期では初等文法を一通り終え、さらに秋学期の「ロシア語作文」という科目で、ロシア語の作文の基礎を学ぶ。現行の「ロシア語作文」（2年次向け）では、「作文法」というよりもむしろ場面ごとの決まり文句を暗記するということに重点が置かれる。つまり「和文露訳」という形をとりながらも、まずロシア語の関連例文を提示し、それを応用してロシア語の文を作らせるというやり方であり、必ずしも日本語を出発点とした考え方はとらない。これは、「作文」とはまずもって「借文」であり、実際のロシア語の典型的な例文を大量に暗記し、それを利用するという方法が「作文」の学習には最も効果的であるという考え方に基づいている。

2年次までに身に着けたロシア語作文能力をもとに、今度は日本語を出発点に、言語的差違を通過しながらロシア語でどのようにそれが表現されるのかという問題を扱いつつ、ロシア語の文を作るのが「ロシア語作文研究」の目指すところである。上記の「作文＝借文」観は当然、初級に限らず中級から上級の学習レベルにおいても適用されるべきであるが、しかしその一方で、すでに母

* 本研究は平成18年度札幌大学研究助成制度による研究成果の一部である。

語をしっかりと身に着けており、その母語に強く干渉されざるを得ない成人の学習者がロシア語を勉強する際、母語である日本語と学習対象の言語であるロシア語を意識的に比較検討するという態度もまた必要である。その意識的な比較作業こそがここで目指す「ロシア語作文研究」の基礎にあり、そこでは「ロシア語作文」という作業は「和文露訳」と同義である。

ここで想定される学習者のレベルは、ロシア語の形態論の基礎や基本的な語彙、語順などを身につけ、簡単な文章が読めるようなレベルであり、ロシア政府公認の「ロシア語検定試験」(ТРКИ) の「基礎レベル」(Базовый уровень) に合格できるレベルである。

これまで和文露訳の本格的な教材としては、除村吉太郎氏の『露文解釈から和文露訳へ』(白水社、改訂版 1967 年)、磯谷孝氏の『ロシア語作文教程』(三省堂、1973 年)、佐藤靖彦氏の『ロシア語作文の基礎』(ナウカ、1993 年)、『ロシア語作文・日本の四季』(新読書社、1991 年)、『ロシア語作文・日本の風俗』(新読書社、1993 年) などがあつた。除村氏の教材は、まずロシア語の構文を説明した後に、それを基に和文露訳の練習をするという方式のものであり、磯谷氏の教材は「比較構文論」に重点を置き、「使役」「受身」「比較級」などの構文をそれぞれロシア語でどのように表現するかを示す豊富な文例集になっている。佐藤氏の『ロシア語作文の基礎』はその折衷的な性格をもち、『ロシア語作文』シリーズは、日本特有の事物をいかにロシア語で表現するか、また単文ではなくまとまった文章をいかにロシア語で作成するか重点が置かれている。これらはそれぞれ理に適った作文教材であり、特に中級から上級者にとっては重要な情報の多く入った有用な教材であろう。

しかしその一方で、初級から中級の学習者には当面不用と思われる構文も少なくない。例えば、辞書をなんとかひきながら簡単な文を訳すことで精一杯の学習者にとって、「条件文」として当面使えるようにならないといけないのは «если» を用いた構文だけで十分あり、Приди ты пораньше, ты бы увидел её (もう少し早く来たなら、彼女に会えたのに)¹ のような動詞の命令形を使った構文は、知識として知っておくべきだとはしても、当面自分で使える必

要は必ずしもない。そのような「条件」、「理由」、「譲歩」その他のよく使われる抽象的な構文以前に、日常的で基本的な行為や出来事を表す文、つまり「[誰／何]が[どうした]」という命題を、的確な語と文法を用いて表現することにそもそも困難を感じる学習者が少なくなく、この点を意識的に中心的に扱った教材は圧倒的に不足している。そのため、本教材は「構文パターン」の説明に関してはまとめていくつかモデルを提示するにとどめ、さまざまな基本的な行為、出来事を日本語と対照しながらいかにロシア語で表すかを中心的な課題とする。

2. 芝居の一場面としての文

文が表す意味内容は、事柄や出来事といった一つの事態である。仁田は「一つの事態」が「芝居の一場面」と同じようなものであると言う。

この一つの事態とは、芝居の一場や映画の一シーンに比べることのできるものであろう。[……] いわば、述語が、芝居の一場・映画の一シーンがどういったタイプ・種類の場・シーンであるかを決定し指定する役目を担い果たしている。述語の指定した場・シーンに応じて、ある役柄を演じることになる名詞句が必要になってくる。述語の要求する一定数の名詞句は、たとえば言えば、芝居の一場や映画の一シーンを演ずる役者のような存在である。[……] さらに役者の演ずる演技は、ある舞台の上で行われる。舞台には、大道具さんや小道具さんが作った舞台装置がある。その舞台装置が、役者の演技が行われる状況・場面設定の役目を果たしている。動詞述語によって形成される文にも、これと基本的に同じことが観察される²。

¹ 磯谷孝『ロシア語作文教程』三省堂、1973年、112頁。

² 仁田義雄『辞書には書かれていないことばの話』岩波書店、2002年、42-45頁。

例えば、「昨夜彼は自分の部屋で子供を激しく叩いた」において、「彼」が、「叩く」という動詞が表す動作を成り立たせている役者である。それに対して、「昨夜」は動作の行われた時を表し、「自分の部屋で」は動作の行われた場所を表している。これは、芝居で言えば、役者の演ずる演技の行われる舞台のありよう・状況に当たる。文にも、演技を演ずる役者に当たる名詞句が必要になると共に、演技の行われる舞台・状況に該当する成分が出現し得る。さらに、文には「激しく」のような修飾成分が現われ得る。これは、芝居のたとえで言えば、動作の仕手が行う演技の行い方であり、言い換えれば、動詞「叩く」のあらわす動作の実現のあり方を修飾・限定する成分である³。

このように「芝居の一場面」として文を考えた場合、中心的な役割を果たしているのは「述語動詞」である。動詞はその表す動作や作用・状態などが成立するための絶対条件として、特定の状況や対象を前提とするからである。例えば、「勝つ」や「負ける」は必ず“ダレカがドコカに”あるいは“ダレカがナニカに”という勝敗の相手が予想されるし、「いる」や「住む」なら“ダレカがドコカに”と場所が問題となる。このように動詞は、その表す意味から必然的にいろいろな事柄をつぎつぎと必要事項として要求し、それが文中での文論的な意味関係として他の語や句と結びつき、文の構造をも決定していくのである⁴。

このように、行為、出来事を文で表現するためには、動詞を中心とした個々の語をいかに使用するかという語法をマスターしなければならない。そのために、まず述語動詞を中心として、どのように日本語とロシア語で対応するかをきちんとおさえることを教材の中心課題とし、それと並行して他の舞台装置の部分や動作の修飾部分に関しても、適宜幅広く扱っていく教材を目指したい。

³ 仁田、前掲書、45-46 頁。

⁴ 森田良行『動詞の意味論的文法研究』明治書院、1994 年、11-12 頁。また、ライズィ『意味と構造』鈴木孝夫訳、講談社、1994 年も参照されたい。

3. 対照言語学としてのロシア語作文

言語が違って、出来事のありようそのものは基本的に共通しているのだから、同じ動作・動きを表す動詞が要求する名詞句の数は、いろいろな言語においてもほぼ同じであろうと予想される。たとえば、〈殴る〉という動きであれば、どの言語においても、殴り手と殴られ手の二者が最低限必要になるだろう。しかし、それらがどのような表現形式をとって現われるかは必ずしも日本語とロシア語で共通するわけではない。両言語間の格の不一致をはじめとして、アスペクトや時制の不一致、また語の文化的意味、指示対象の範囲の相違など、さまざまな言語現象で差違が生じるのは当然のことである。したがって、必然的に対照言語学的な視点が必要になる。

3.1 語彙項目の多義性／多対応の問題

対照言語学の観点からのロシア語作文を考えるときに、まず問題となるのは「多義性」と「多対応」の問題である。多義性は意味論の中心的な問題の一つであり、日本語の多義性の問題は日本語学において、またロシア語の多義性の問題はロシア語学においてそれぞれ詳細に論じられているが、両言語間における多義性の問題は、まだ研究の蓄積が不足している。

ここで、語彙に関する多義性／多対応の問題を簡単に整理しておこう。

認知言語学などで明らかにされているように、多義を生み出す構造は人間の認知能力に基づいたものであり、それ自体は人類に普遍的に見られる現象であるため、多義の構造のモデル自体は多くの言語においても共通であることが多い。

例えば、形容詞「高い」の最も基本的な（プロトタイプ的な）意味は、物理的に高さがあるということだと想定されるが（「高い山」）、「物価」や「温度」などに関してもメタファー的に使われる（「値段が高い」、「気温が高い」）。このようなメタファー的な意味拡張は、通常は「メタファー」とであると気づかれないくらい普遍的なものであり、日本語のみならず、ほとんどの言語でもみられる現象であろう。

また、メトニミー的な意味拡張も普遍的に多くの言語で見られる現象である。例えば、「会場全体がどっと笑った」のように、「会場」という建物を表す語が、建物内部にいる人を指して使われるというようなメトニミーの例は、ロシア語でも *Весь зал* покатылся от хохота という文が可能であることから分かるように、両言語に共通している。

シネクドキに基づく意味拡張もまた人間言語に共通する。例えば、「飲む」が「酒を飲む」意味で用いられるのは日本語に限ったことではなく、ロシア語でも *Он не пьёт* は「彼は（酒を）飲まない」という意になり得る⁵。

これらの意味拡張は非常に基本的であり、ここでは「多義」であることすら気づかれないことが多く、ほとんどの場合言語間で共通しており、翻訳上もあり問題にならないことが多い。

しかしその一方で、こうして生み出される個々の語彙の多義性が言語間で「完全な」一致を見せることは稀であり、しばしば細かな差違が生じている。例えば「入る」という日本語動詞を考えてみよう。最も基本的な意味は「外から区切られた空間の中まで移り進む」という意味であり、これはロシア語では基本的には *входить* で表される（例：「部屋に入る」*входить в комнату*）。派生的な意味である「なんらかの役割をもって、そこに位置するようになる」に関しても、多くの場合ロシア語で *входить* が使えるが（例：「クラブに入る」*входить в клуб*）、しかし「大学に入る（＝入学する）」の場合には普通は *входить* という動詞ではなく、*поступать* という動詞を使わなければならない。

また、「帰る」の語義の分類もロシア語に訳すときに問題になる。例えば、「帰る（返る）」という動詞に関して、動詞用法辞典では(1)向き・上下・裏表が反対になる、(2)もとの状態になる、(3)もとの場所・持ち主に戻る、(4)人や乗り物などが自分の家・会社・国など、もといた所に戻る、(5)こちらのした行為に相手が応じる、と五つに分けてあるが⁶、ロシア語に訳すことを考えた場合、

⁵ これらのメタファー、メトニミー、シネクドキについては、例えば佐藤信夫『レトリック感覚』講談社、1992年を参照のこと。

(4)がさらに細かく区別されなければならない。

例えば職場を出る際に「もう帰ります」と言うとき、ロシア語では「戻る」という意味の動詞（вернуться）ではなく、「立ち去る」（уйти、пойти など）という動詞を使わなければならない。「戻る」（вернуться）を使うと、職場にまた戻ってくるという意味になってしまうからである。この「帰る」の用法は、「もといた所に戻る」という意味がすでに薄れていて、「（他の場所からやってきた人が）立ち去る」というところに焦点があたっており、その場合にはロシア語では вернуться が使いにくいということがあり得るのである。

このような「多義性」の問題は、他の言語を通さないと気づかれにくいものであり⁷、学習者は意識的に捉える必要がある。

もちろん、このレベルの問題は基本的には「和露辞典」にもある程度の記述がある。語義記述の精度の高い種々の露和辞典に比べると、現在出版されている和露辞典は概して不十分であるものの、その中では2000年に研究社から出版された藤沼貴氏の編集による『和露辞典』においては、日本語の語義が比較的こまかく分類されており、対応するロシア語の記述にも気を配っているのが見て取れる。しかし、一つの語であっても、時制やアスペクトの問題が絡んだ場合や、実際に文の中でさまざまな構文の中で使われる場合に、日本語とロシア語の間でさまざまな対応が見られることがあり、その意味の多対応に関して二言語辞書に詳しい説明を求めることは事実上不可能であろう。また、使役や受身などの文法的な項目についての説明も、個々の語彙によって事情が大きく変わってくるため、やはり辞書という枠を超えて、個別に説明がなされるべきものであると考えられる。

このように、日本語とロシア語を対照するとき問題となってくるさまざまな問題を意識させ、検討させるところに「ロシア語作文研究」の教材では焦点

⁶ 小泉保他編『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店、1989年、117頁。

⁷ Панина はこのような事例を「多義性」（неоднозначность）とは呼ばず、二言語の語彙構造の違いによる多対応（многоэквивалентность）と呼び、二言語間意味論でのみ生ずる現象であるとして「多義性」とは区別しているが、本稿では特に区別を設けない。

をあてることにしたい。つまり、「対照言語学」としての「ロシア語作文研究」が必要だということである。

3.2 文法的要素

動詞に関して時制やアスペクトによる変化形を含めた形で多言語間で対照する研究は非常に困難であり、従来の意味論でも動詞に関して扱われてきたのはもっぱら不定形が中心であった。そしてここが、基本的に例文を挙げることしかできない「和露辞典」の限界でもあると同時に、実際に「作文する」ことを目指す教材ではこれこそが非常に重要となる。

日本語とロシア語では文法体系が大きく異なることにより、さまざまな言語間多対応が起こり得る。ロシア語作文の問題の場合、名詞の単数／複数、形容詞の長語尾／短語尾など注意を要すべき項目は多岐にわたるが、なかでも時制と体が複雑に絡みあう動詞は問題が大きい。例えば、ロシア語の完了体・不完了体について意識的に学ぶのみならず、ロシア語作文の場合、日本語のアスペクトに関しても注意が必要である。例として、ここで「動詞＋テイル」（以下、「シテイル」）という形を見てみよう。

日本語の「シテイル」は大きく分けると、「進行中の動き」（例：ラジオから音楽が流れている）と「習慣・反復」（例：私はずっとここで寝起きしている）、「経験・記録」（例：彼は一度小説を書いている）、「動きの結果としての状態」（例：道で人が死んでいる）、「単なる状態」（例：坂の下に街灯が立っている）などの意味がある⁸。このうち、「進行」と「習慣・反復」がロシア語では基本的に不完了体動詞で表現されることは説明を要しないが、「動きの結果としての状態」の意味では、すでに問題が複雑になる。例えば「道で人が死ん

⁸ 副島は「シテイル」の意味を本稿とほぼ同じように分類し、その基本的意味を「変化の結果の継続」、「動きの継続」の二つとし、派生的意味として「ペルフェクト」、「反復・習慣」、「単なる状態」と分類し、そして不変的意味として「動詞（およびその補語とそれらにかかわる修飾表現）の表す動作を、基準時点において、結果の状態としてとらえ、さしだす」とする。副島健作『日本語のアスペクト体系の研究』ひつじ書房、2007年、第3章を参照されたい。

「**でいる**」という文では、「死につつある」という意味ではなく、「もう死んでしまい、今その状態である」という意味であり、このように、「…しつつある」というような進行の意味ではない用法の場合、ロシア語では完了体過去で表したり、あるいはまったく別の動詞を用いることがある。ここで、ロシア語話者のための日本語動詞のアスペクトに関するテキストから例を挙げよう：

- ① 会議は予定通りに始まった：Совещание началось в назначенное время.
⇒ 会議はとっくに**始まっている**：Совещание «давно **началось** [сейчас **идёт**].
- ② お母さんはちょうど来たところだ：Ваша мама как раз только что пришла к нам.
⇒ お母さんは今こちらに**来ている**：Ваша мама сейчас (**находится**) у нас.⁹

また、「経験・記録」の用法は、「結果」の派生的用法だと考えられる。「…したことがある」という経験の意味では、通常ロシア語では不完了体過去で表され、「記録」の意味では完了体が使われる場合ももちろんある（例文参照）。

- ① 昨日その番組を**見ている**：Я **видел** эту передачу ещё вчера.
- ② 彼はすでに何冊もの本を**書いている**：Он **написал** уже много книг.¹⁰

このように、同じ動詞でも、「シテイル」の形の場合には、ロシア語では時制、アスペクトに気をつけなければならなかったり、またまったく別の動詞で表現されることもあるということに気をつけなければならず、このことはロシア語作文の教材にも反映させなければならない。

⁹ А.Ю. Данилов, Японский язык. Глагол: Категория вида. М.: Издательский Дом «Муравей-Гайд», с. 46-47.

¹⁰ Там же, с. 52-53

もう一つ特に重要なのは「動詞＋(サ)セル」という形である。日本語の「させる」は〈強制〉の意味のほか、〈許可〉の意味ももち、一つ一つ意味を考えながらロシア語に訳し分けなければならない。また、ロシア語の動詞一つで〈強制〉や〈許可〉の意味を表す場合もあり（例えば、「停止させる」という意味の *останавливать*）、それらも一つ一つ個別に検討されなければならない。

また、〈受身〉その他の文法事項も、抽象的にシンタクスレベルだけで日本語とロシア語で一対一に対応する種類のものではなく、個々の動詞を個別に検討することが必要である。

つまり、これらの文法的意味は個々の語彙から独立して単独で抽象的に構文レベルだけで日露両言語の対照が完全に行えるものではなく、語彙項目から離れて一般化するのが難しいため、個別の語法研究の中で一つ一つ記述されるべきだろう。本教材では、それらの情報もできるかぎり含んだ記述を目指したい。

本稿で目指す教材は、中級程度の「ロシア語作文」（「和文露訳」）の教材という限定された場における記述であるため、語義の体系的・網羅的な記述を目指すものではないが、しかし日本語話者のロシア語学習者が意識的に学習すべき点は逐一触れていく。

4. 基本動詞の選定

4.1 扱う動詞

教材で取り上げるのは、基本的に汎用性の高い語、つまり対象がごく狭い範囲のものに限定されたり、文体的な制約が強かったりすることのない語を中心とする。例えば、「食べる」や *есть* が汎用性が高いのに対して、「むさぼる」や *жрать* はかなり限定された場合にしか用いられず、作文教材としては前者を優先的に扱うということである。

また、取り上げる文は基本としては単文である。時に、簡単な重文や複文を扱うにしても、第一の目的は、単純な一つの場面を的確にロシア語で表現できるようになるということとする。どんな複雑な文も基本的にはすべて単文に分

解することが可能であり、最低限、単文を積み重ねれば、意志を伝えることは可能だからである。

また、文体的な問題も中心的には扱わない。文体上の細かな差違を論じるよりも前に、とにかく基本的な場面をロシア語で文法的・論理的に正確に伝えられるというレベルを徹底的にマスターすべきであると考えからである。

物理的な運動・動作のうちの基本的なもの、そして人間やモノの基本的な行動、動作、感情表現などを中心に上げる。ここでは、和露辞典のように、日本語の動詞を一つ一つ取り上げ、細かく語義を分けて、対応するロシア語を一つ一つ記述するという方法は取らない。例えば、「上げる」という動詞を取り上げる場合、「物理的に高い位置に移動させる」という意味のほかに、「日曜までにこの仕事を上げる」に見られるように、「終える」という意味を持つ場合がある。和露辞典であれば、「上げる」の語義の一つとして、この「終える」という意味も記述し、それに対応するロシア語も示さなければならないが、そういう記述法は本教材ではとらない。むしろ表面的な語彙の違いに関わらず、例えば「上方への運動・動作」とひとまとめにし、その中で「上げる」「登る」「立ち上がる」「立つ」その他を同時に扱った方が効率がいいからである。「仕事を上げる」の場合は、「終える」という意味だということを日本語内でまず変換することさえできれば、和文露訳の上では問題はないはずであり、「終える」という基本的な動作については、「終了する」「やめる」「あきらめる」「止める」その他とともに扱う。

4.2 基本動詞の選定・分類

基本動詞の選定は、国立国語研究所が1982年に発行した『日本語教育基本語彙七種比較対照表』に基づく。この対照表は、それ以前に出版された日本語基本語彙資料七種に載っているすべての語彙を掲載したものである。本教材では、そのうち動詞にしぼり、三種以上の資料で「基本語彙」とされているおよそ600の動詞を選定した。この中には、例えば「応用する」のように、本書では「応用」という名詞の形でしか掲載されていないものでも、「一スル」とい

う補助動詞をつけて使われる重要語に関しては「動詞」として本教材に取り入れることとする。

こうして選定された約 600 の基本動詞を、その意味内容にしたがって 72 のカテゴリーに分類した。この分類は基本的には柴田武・山田進編『類語大辞典』によっているが、本辞典では 100 のカテゴリーに分類しているところを、本稿ではいくつかまとめて扱っている（例えば、「中止・休止」と「停止・停滞」など）。

多義語は基本的にはそれぞれの意義に従って、いくつかのカテゴリーに同時に分類している。例えば、「落とす」は「除去」（例：塵を落とす）、「移動」（例：ボールを下に静かに落とす）、「消滅」（例：財布を落とす）の三つに分類される。

しかし、例えば「吐く」（「出」カテゴリー）は「白状する」という意味では「言語」に分類されるべきであるが、この意味で用いられる場合は「基本語」とは言いがたく、かなり使用域が限られているため、本研究では「出」だけに分類する。

以下の表がカテゴリー分類した基本動詞である。表上部の①は本研究におけるカテゴリー番号、②は『類語大辞典』におけるカテゴリー番号、③は『類語辞典』におけるカテゴリー名、④は基本動詞である。

①	②	③	④
1	00	生死	生きる、おぼれる、枯れる、暮らす、死ぬ、助ける、散る、亡くなる、発達する
	01	生育	生まれる、生む、飼う、咲く、茂る、育つ、育てる、生える
2	02	睡眠	起きる、起こす、眠る、寝る、休む
3	03	飲食	噛む、呼吸する、吸う、食べる、飲む
4	04	視聴覚	観察する、監督する、聞く、聞こえる、見物する、眺める、覗く、見える、見せる、見つける、見る、目立つ

「ロシア語作文研究」教材：理論と構成（高橋健一郎）

5	05	感覚・感情	安心する、痛む、覚える、嗅ぐ、感謝する、感じる、感心する、疲れる、匂う、燃える
	06	愛情・愛好	愛する、好く
6	07	欲望	希望する、想像する、願う、望む、欲する
7	08	歓喜	祝う、楽しむ、満足する、喜ぶ、笑う
8	09	悲痛	泣く
	10	後悔・哀惜	うらむ、後悔する
	11	苦悩	いじめる、痛む、がっかりする、苦しむ
	12	困苦・恥辱	困る、迷う
9	13	嫌悪	飽きる、うらむ、嫌う、憎む
10	14	驚嘆・恐怖	慌てる、恐れる、驚く
11	15	思考	当てる、疑う、遠慮する、思い出す、思う、考える、比べる、計画する、信じる、信用する、想像する、比較する、間違う、予想する
12	16	調査・確認	数える、観察する、加える、計算する、試みる、実験する、証明する、試す、計る、平均する、割る
13	17	選定・決定	選ぶ、決まる、決める、決定する、定める、定まる
14	18	識別・分別	暗記する、勉強する、覚える、解決する、経験する、研究する、発明する、判断する、復習する、質問する、承知する、通じる、できる、解く、習う、発見する、見つける、認める、予習する、読む、理解する、留学する、分かる、割れる
15	19	言語	挨拶する、言う、歌う、おっしゃる、会話する、騒ぐ、話す、主張する、相談する、伝える、電話する、鳴く、発音する、命令する、申す、呼ぶ
16	20	約束・交渉	契約する、交渉する、相談する、まとめる、結ぶ、約束する
17	21	教示・広報	示す、案内する、教える、教育する、広告する、指す、指導する、紹介する、説明する、伝える、発表する、報告する、放送する、見せる、連絡する
18	22	表記	表す、表れる、印刷する、映す、映る、書く、発行する、まとめる
19	23	姿勢	避ける、対する、逃げる、向かう、向く、向ける、避ける

20	24	起居	居る、起きる、起こす、踊る、住む、座る、立つ、立てる、寝る
21	25 26 27 81	歩行 通行 往来 遠近	歩く、泳ぐ、散歩する、走る 越える、伝わる、通す、通る、乗り越える、渡る 行く、いらっしゃる、帰る、通う、来る、出発する、連れる、出かける、訪問する、向かう、戻る、寄る、渡る 近づく、近寄る、離す、離れる、寄せる、寄る
22	28	交流	会う、集まる、集める、送る、結婚する、紹介する、招待する、世話をする、待つ、招く、迎える、呼ぶ、別れる
23	29	態度・挙動	飾る、活動する、行動する、黙る
24	31	性急・多忙	慌てる、急ぐ
25	32	遊戯・休息	遊ぶ、休む
26	33	傲慢	自慢する
27	34	尊敬・信心	祈る、お辞儀する、恐れる、信じる、尊敬する、褒める、祭る
28	35	依頼・強制	誘う、勧める、請求する、頼む、注文する、願う、面倒をかける、求める、要求する
29	36	詐欺	はめる
30	37	闘争・勝負	争う、勝つ、競争する、比べる、喧嘩する、闘う、負ける、倒す、倒れる、抜く、破る、分ける
31	38	攻守	保護する、守る
32	39	叱責・脅迫	叱る
33	40	配慮	世話をする、助ける、手伝う、慰める、見る、面倒を見る
34	41	従順・反抗	謝る、返事する、答える、断る、賛成する、従う、反対する
35	42 46	授受 獲得	預かる、預ける、与える、いただく、受け取る、受ける、払う、贈る、売る、買う、貸す、借りる、配る、くれる、交換する、求める、貰う、遣る、輸出する、譲る、輸入する、許す、寄せる、分ける、渡す 奪う、得る、捕まえる、釣る、捕らえる、取る、盗む、拾う、貰う

「ロシア語作文研究」教材：理論と構成（高橋健一郎）

36	43	行為・成否	行ふ、経営する、試みる、失敗する、する、成功する、対する、手続きする、取り扱う、成る、働く、開く、遣る、料理する
37	44	従事・努力	支度する、準備する、備える、努める、手続きする、努力する、夢中になる
38	45	探索・追及	宛てる、当てる、追う、頑張る、探す、狙う、求める
39	47 48	中止・休止 停止・停滞	諦める、遠慮する、降りる、邪魔する、制限する、卒業する、慎む、怠ける、残す、防ぐ、休む、止める、油断する、予防する 浮かぶ、落ち着く、残る、たまる、止まる、止める、泊まる、泊める、止む
	90	開始・終了	起こす、落ち着く、終わる、解決する、繰り返す、済む、卒業する、続く、続ける、始まる、開く
40	49	運動	開く（あく、ひらく）、開ける、動かす、動く、移す、運動する、転がす、下がる、閉まる、閉める、進歩する、進む、進める、はずれる、発達する、発展する、曲がる、滑る、閉じる、流す、流れる、走る、はずす、滑る、離す、のぼる、運ぶ、広げる、回る、寄せる
	78	高低	上げる、お辞儀する、落ちる、落とす、下がる、積もる、上る、引く
41	50	転倒	傾く、転がす、転がる、転ぶ、倒す、倒れる
42	51	振動	振る、震える、揺れる
43	52	動作（つかむ・投げる・踏む）	打つ、押さえる、押す、蹴る、刺す、叩く、掴む、突く、とらえる、取る、投げる、握る、挟む、張る、引く、ひっぱる、踏む、振る、持つ
44	53	支持	かぶる、含む、保存する、持つ
45	54	利用・操作	扱う、応用する、漕ぐ、使用する、使う、用いる、雇う、利用する
46	56	入	入れる、収める、込む、しまう、包む、入る、はめる、混じる、まぜる
47	57	出	降ろす、咳をする、出す、出る、流す、抜く、吐く、吹く、漏る、漏れる
48	58	接触	当たる、当てる、擦る、触る、衝突する

CULTURE AND LANGUAGE, No. 67

49	59	付着・装着	掛ける、かぶる、着せる、着る、添える、付く、付ける、つなぐ、塗る、張る、履く、はめる、結ぶ、連絡する
50	60	除去	落とす、刈る、削る、捨てる、掃除する、省く、抜く、脱ぐ、除く、解く、取る、掃く、はずす、払う、拭く、磨く、剥く
	61	脱落	落ちる、取れる、はずれる
51	62	移動	浮かぶ、移る、送る、落ちる、落とす、降りる、降ろす、返す、配る、下がる、沈む、届ける、配達する、運ぶ、離す、引越す、向ける、戻る、遣る、寄せる
	55	到達	影響する、通じる、着く、伝える、伝わる、届く、上る、広がる、渡る
52	63	設置・積載	植える、置く、掛かる、掛ける、敷く、積む、積もる、吊る、吊るす、載せる、乗る、挟む
53	64	統合・整理	集まる、集める、囲む、重なる、飾る、片付ける、監督する、協力する、汲む、加える、縛る、揃う、揃える、代表する、溜まる、溜める、並ぶ、並べる、縫う、まとめる、結ぶ、寄せる
54	65	分割・区画	限る、区別する、制限する、分かれる、分ける、割る、割れる
55	66	乱雑・狂騒	崩れる、狂う、込む、騒ぐ、沸かす
56	67	修正・統治	改める、治める、改正する、解く、直す、直る、治す、治る
57	68	生産	織る、建設する、建築する、工事する、生産する、製造する、作る、できる、成る、煮る、開く、焼く、焼ける、料理する、沸かす
58	69 70 71	破壊 切断 変形	折る、折れる、切る、崩れる、砕く、砕ける、壊す、壊れる、刈る、切れる、怪我する、故障する、刺す、爆発する、破る、破れる、割る、割れる、折る、折れる、畳む、捻る、広げる、曲がる、曲げる
59	72	変化一般	変える、変わる、曲げる
60	73 74	強弱 硬軟	緩む、緩める 凍る、とがす、とける、とく、緩む、緩める
61	75 79	大 多数・多量	延ばす、延びる、広がる、広げる、太る 越える、増加する、はやる、増える、太る、流行する

62	76 80	小 少数・少量	砕く、砕ける、瘦せる 空く、延ばす、引く、減る
63	82	清濁	洗う、洗濯する、掃除する、濁る、汚す、汚れる
64	84 85 87	乾湿 温度 自然	乾かす、乾く、湿る、濡れる 暖める、冷える、冷やす 輝く、曇る、照らす、鳴る、晴れる、反射する、光る、降る、止む
65	86	燃焼	焦げる、点く、燃える、焼く、焼ける
66	89	時間	遅れる、延ばす、延びる
67	91	関係	要る、掛かる、関する、交渉する、平均する、要する、因る
68	92 93	適合 異同	合う、合わせる、一致する、応用する、重なる、揃える、揃う、釣り合う、慣れる、似る、足りる、間に合う、向く 共通する、足りる、違う、釣り合う、取り替える、並ぶ、矛盾する
69	94	善	興味を持つ、優れる、抜く
70	95	悪	劣る、腐る、狂う
71	96 97	存在・含有 出現・生起	余る、有る、いる、足りる、残す、残る、含む、持つ 現す、現れる、起きる、起こす、できる
72	98	不在・消滅	失う、落とす、隠す、隠れる、消える、消す、散る、流す、無くす、無くなる

5. 教材の記述内容

5.1 対応するロシア語

4 で選定された基本動詞について、どのようなロシア語表現が対応するのかを記述する。対応する語は多数ある場合もあるが、学習効果を考え、なるべく汎用性が高く基本的だと思われる語を中心に記述する。

5.2 意味拡張

本教材では基本的な（プロトタイプ的な）意味を中心に扱う。慣用表現やあるいはメタファーやメトニミー、シネクドキなどの意味拡張や誇張表現などの

中で、特に注意が必要なものに関して触れるほか、派生的意味に関して他のカテゴリーで中心的に扱われているものについては、その参照先を提示する。

5.3 文法的事項

日本語と比べて特に注意を要すると思われる文法的事項について扱う。例えば、格支配についてや、あるいはアスペクトの絡む動詞の使い方などを扱う。

5.4 参考例文

参考となる例文をいくつか出す。動詞とともにしばしば用いられる要素を伴う表現を中心に扱う。

5.5 練習問題

動詞の数によるが、およそ3問から15問ほどの練習問題を課す。基本的な語義を中心として、これまで触れてきた注意点などにも留意することが求められる問題である。単文を中心とし、比較的簡単な問題から始める。日本語内翻訳すべき表現や、和露辞典で見つけにくい表現に関しては適宜注をつける。ここでは、上で述べた「舞台装置」、「時間の表現」などもなるべく含むようにし、それらも少しずつマスターできるようにする。

5.6 囲み項目

〈受身〉や〈使役〉などの構文、時間表現など、まとめて扱える文法的項目について、適当な場所に囲み項目を設け、語彙の用法と有機的に関連した理解を目指す。以下が、囲み項目の主なテーマである。

- ・動詞＋ている
- ・複文の時制
- ・動詞＋させる
- ・ロシア語の語順

- ・指示語 то と関係する что (чтобы) 節
- ・直接話法と間接話法
- ・受身
- ・ロシア語の運動の動詞
- ・時間表現

II. 記述例

以上の理論的な考察に基づいて、以下に実際の「ロシア語作文研究」の教材の記述例を挙げる。

* * *

《1》

生死（生きる・死ぬ）

生育（生む・育てる）

生きる・暮らす・発達する・死ぬ・亡くなる・枯れる・散る・おぼれる
生まれる・生む・育つ・育てる・飼う・咲く・生える・茂る など

[生きる]

「生きる」「暮らす」は基本的には жить で表現されます。

[生む]

「生む・産む」に関して、人間・動物だいたいすべてに使える動詞は родить（完了体・不完了体で過去女性形のアクセントが異なるので注意）です。鳥などが卵を産むという場合にも使えます。ただし、魚などの卵（икра）に関しては普通は метать / выметать（мечу, мечешь... / вымечу, вымечешь...）が使われることに注意しましょう。

[生まれる]

生き物が「生まれる・産まれる」に関しては、ほとんどすべて родиться で表現されます（虫や魚でも同様です）。ただし、「卵から孵化する」という意味を表す動詞 выводиться / вывести も使われます。

[育てる]

「子供を育てる」「人を育てる」という意味では воспитывать / воспитать が広く用いられます。

「人材を育てる」という意味では、воспитывать / воспитать のほかに特に подготавливать (готовить) / подготовить がよく使われます。воспитывать / воспитать が「成長させる」という意味合いなのに対し、подготавливать / подготовить は「～という人材を準備する」という意味合いです。

「動物を育てる」「動物を飼う」の場合は、кормить や держать などがよく使われます。前者は「餌をやる」という意味で、後者は「保持する」という意味ですが、どちらとももう少し広い意味で使われます。кормить に接頭辞のついた выкармливать / выкормить も覚えておきましょう。文字通り「育てる」のであれば、растить (выращивать) / вырастить という動詞が使えます。さらに、「養殖する・殖やす」という意味合いで разводить / развести という動詞もよく使われます。

「植物を育てる」の場合最もよく使われるのは растить (выращивать) / вырастить です。

生き物以外にも растить / вырастить が使えることがありますが、最もよく使われるのは развивать / развить という動詞です（例：「音楽への関心を育てる」развивать интерес к музыке）。

[育つ・発達する]

人間、動植物を問わず、「育つ」の意で最も一般的なのは расти / вырасти という動詞でしょう。

「関心が育つ」など人間や動植物以外でも *расти* / *вырасти* がしばしば使われます。ほかに「(国や産業などが) 発達する」という場合に *развиваться* / *развиться* がよく使われます。

「(花などが) 咲く」の意で最もよく使われるのは *цвести* や *расцветать* / *расцвести* という動詞です。後者は「咲き始める」という意味です。

「生える」も「育つ」と同じで *расти* / *вырасти* が使われます。植物以外の「髪」や「爪」などにも使われます。

「茂る」という語は、例えば「濃密に生える」などの意と考えて、*густо расти* / *вырасти* のように副詞をつけて表現することができます。ほかに、*зарастать* / *зарасти* という動詞もあります。使い方に関しては下の【文法的事項】を参照してください。

[死ぬ]

「死ぬ」という意味を表す動詞としては、まず *умирать* / *умереть* と *погибать* (*гибнуть*) / *погибнуть* を覚えましょう。

умирать / *умереть* は通常人間の死について用いられますが、動物に対しても用いられることがあります（動物に関しては普通は *дохнуть* / *подохнуть* などがよく使われます）。

погибать / *погибнуть* は、人間に関しては、事件や事故、戦争など不自然な死に方をした場合に用いられます。動物に対しても用いられますが、その場合は、死因を示して使うことが多いようです。

植物が「枯れる」という場合は、「しぼむ・しおれる」という意味の *вянуть* / *завянуть* や「干からびる」という意味の *сохнуть* / *засохнуть* などのほか、上記の *погибать* (*гибнуть*) / *погибнуть* が使われます。

「(花や葉などが) 散る」は「落ちる」という意味ととって、*опадать* / *опасть* を使いましょう。

「溺れる」は *тонуть* / *утонуть* という動詞が使われます。完了体／不完了体に関して注意が必要ですので、【文法的事項】で確認してください。

【意味拡張】

①「おかしくて死にそうだ」や「死ぬほど退屈だ」のように、「死ぬ」が誇張表現として使われる場合がありますが、ロシア語も同様です。「おかしくて死にそうだ」は *умирать со смеху*、「死ぬほど退屈だ」は *умирать со скуки* などと表現されます。

②「生む」や「生まれる」が生物以外のものについて使われ、「出現させる」「出現する」の意味で用いられる場合があります。ロシア語でも多くの場合 *родить* や *родиться* がそのまま使えますが、詳しくは《71》「存在・含有・出現・生起」の項を参照してください。

【文法的事項】

①「育てる」という行為は通常長い年月をかけて行われるものなので、普通ロシア語では不完了体で用いられます。完了体は「育て上げる」というニュアンスになります。

②「茂っている」という《状態》を表す場合、ロシア語では例えば不完了体動詞 *расти* の現在形に *густо* などの副詞をつけるか、あるいは完了体動詞 *зарасти* の過去形を使います。後者の動詞は「(草・木などが) 生い茂る」という動作を表しますから、完了体の過去形を使うことによって、「生い茂る」という動作が起こった結果として「今、生い茂っている」という状態を表すわけです。ちなみに、*заращать* という不完了体はあくまでも「生い茂りつつある」というような動作しか表せません。囲み項目も参照してください。

③「死」を表すロシア語動詞は基本的には完了体は「死亡する」ことを表し、不完了体は「死に至る過程 (死につつある、死にそうであること)」を表します。特に、「溺れる」(*тонуть* / *утонуть*) に関しては日本語とロシア語の感覚が大きく異なりますので注意しましょう。ロシア語で *утонуть* と完了体を使うと、それは「溺れ死ぬ」という意味になります。

【参考例文】

- ・ 虚弱に生まれる：родиться слабым
- ・ 彼女は祖母の手で育てられた：Она росла у бабушки.
- ・ 病気で死ぬ：умереть от болезни

【練習問題】

- ① 私の祖母は戦前ロシアで暮らしていました。
- ② 彼女は一度も子供を産んだことがない。
- ③ 彼は丈夫な子に生まれました。
- ④ 彼女は女手一つで三人の息子を育て上げた。（「女手一つで」は「一人で」と言い換えましょう）
- ⑤ サーシャは水槽に金魚を飼っています。（держать を使って）
- ⑥ この男の子は祖父母のもとで育てられました。（расти を使って）
- ⑦ 庭にバラが咲いている。
- ⑧ 2年前、夫が癌で亡くなりました。
- ⑨ 昨年鳥インフルエンザで500人以上が死亡した。（鳥インフルエンザ：птичий грипп）
- ⑩ 葉が暑さで枯れる。

「動詞＋テイル」について

日本語の「動詞＋テイル」がいろいろな意味をもつことに注意しましょう。大きく分けると、次の5つの用法があります。

- ① 「進行中の動き」(例：ラジオから音楽が**流れている**)
- ② 「習慣・反復」(例：私はずっとここで**寝起きしている**)
- ③ 「経験・記録」(例：彼は一度小説を**書いている**)
- ④ 「動きの結果としての状態」(例：道で人が**死んでいる**)
- ⑤ 「単なる状態」(例：坂の下に街灯が**立っている**)

などの意味があります。このうち、①と②、⑤がロシア語では基本的に完了体動詞で表現されることは説明を要しないでしょう。

風が吹いている：**Дует** ветер. (進行)

労働者が働いていた：**Рабочие работали.** (進行)

私はバスで大学に通っています：**Я езжу** в университет на автобусе. (習慣)

木が立っている：**Стоит** дерево. (単なる状態)

しかし、④「動きの結果としての状態」の意味では、すでに問題が複雑になります。例えば「道で人が**死んでいる**」という文では、「死につつある」という意味ではなく、「もう死んでしまい、今その状態である」という意味です。このように、「…しつつある」というような進行の意味ではない用法の場合、ロシア語では完了体過去で表したり、あるいはまったく別の動詞を用いることがあるのです。例えば、ロシア語話者のための日本語動詞のアспектに関するテキストから例を挙げましょう：

【動きの結果としての状態】

1. 会議は予定通りに始まった：Совещание началось в назначенное время.
⇒ 会議はとっくに**始まっている**：Совещание «давно началось [сейчас идёт].
2. 今朝、彼は新しいシャツを着た：Сегодня утром он надел новую рубашку.
⇒ 今日、彼は新しいシャツを**着ている**：Сегодня он надел новую рубашку. / Сегодня он одет в новую рубашку.
3. 私は歩いて疲れた：Я устал от ходьбы.
⇒ 私は**疲れている**：Я устал.
4. 息子は8時に学校へ行った：Сын отправился в школу в восемь часов.
⇒ 息子は今学校へ**行っている**：Сын сейчас (находится) в школе.
5. お母さんはちょうど来たところだ：Ваша мама как раз только что пришла к нам.
⇒ お母さんは今こちらに**来ている**：Ваша мама сейчас (находится) у нас.
6. 私は椅子に座った：Я сел на стул.
⇒ 私は椅子に**座っている**：Я сижу на стуле.
7. 私は席から立った：Я встал с места.
⇒ 私は**立っている**：Я стою.
8. 父は10時に寝た：Отец лег спать в десять часов.
⇒ 父はベッドで**寝ている**：Отец спит на кровати. / Отец лежит на кровати.

【経験・記録】

「経験・記録」の用法は、「結果」の派生的用法だと考えられます。「…

したことがある」という経験の意味では、通常ロシア語では不完了体過去で表されることに注意しましょう。「記録」の意味では完了体が使われる場合ももちろんあります。

1. 以前に何度も**試みている**：Раньше не раз пробовал.
2. この映画はとっくに**見ている**：Я давно смотрел этот фильм.
3. ここでは5年前に石油が**発見されている**：Здесь пять лет назад была обнаружена нефть.
4. 昨日その番組を**見ている**：Я видел эту передачу ещё вчера.
5. 彼はすでに何冊もの本を**書いている**：Он написал уже много книг.

《 2 》

睡眠（眠る・覚める）

眠る・寝る・休む・起きる・起こす・覚める など

これらの動詞はいろいろな意味をもちますが、ここでは基本的には睡眠に関する意味だけを扱います。

[眠]

「寝る」はロシア語に訳すときに注意が必要です。日本語の「寝る」は「床に就く」あるいは単に「横になる」という意味と、「眠る」の両方の意味を持ちますが、ロシア語では前者は ложиться / лечь を使い（「横になっている」という状態ならば лежать）、後者は спать を使います。「寝入る・寝付く」という意味ならば, засыпать / заснуть や уснуть（対応の不完了体無し）を使います。

【起】

「起きる」に関しても注意が必要です。日本語では「起きる」が「起床する」と「目を覚ます」の両方の意味を持ちますが、ロシア語では「起床する」という意味では вставать / встать を使い、「目を覚ます」という意味では просыпаться / проснуться を用います。вставать は動物にも使えますが、もともと「立ち上がる」という意味が基本になっているので、小鳥などのような小さな動物の場合は вставать はあまり用いられません。

「起こす」という他動詞は、будить / разбудить です。

【意味拡張】

①「休む」は「眠る」以外の意味でも使われますが、それについては《25》「遊戯・休息」、《39》「中止・休止・停止・停滞・開始・終了」の項を参照してください。

②「起きる」は「発生する」の意味でも使われますが、それについては《71》「存在・含有・出現・生起」の項を参照してください。

【文法的事項】

①「眠らないでいる」という意味の「起きている」は、ロシア語では проснуться（完了体）の過去形（「目覚めた」→「もう起きている」）、あるいは не спать（「寝ていない」）などで表すのが普通です。

【参考例文】

- ・ 8時間眠る：спать восемь часов
- ・ 8時に寝る：ложиться спать в восемь часов
- ・ 電話の音で起きる：просыпаться от телефонного звонка

【練習問題】

① 父は夜遅くまで起きている。

- ② 小鳥たちは日の出とともに起きる。
- ③ あなたは7時間以上寝なければなりません。
- ④ 息子はさっき寝ましたが、まだ眠ってはいないでしょう。
- ⑤ 外の騒音がうるさくて、寝付けませんでした。

* * *

参考文献

- Данилов, А.Ю. (2001) Японский язык. Глагол: категория вида. М: Издательский Дом «Муравей-Гайд».
- Панина, А. (2002) Проблемы лексической неоднозначности при переводе с японского языка на русский. (В связи с задачами японско-русского автоматического перевода). Автореферат диссертации на соискание ученой степени кандидата филологических наук. М.: 2002.
- 磯谷孝『ロシア語作文教程』三省堂、1973 年
- 王世和『動詞語彙論のための基礎的研究——文章論と結んで』和泉書院、1999 年
- 小泉保他編『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店、1989 年
- 国立国語研究所『動詞の意味・用法の記述的研究』秀英出版、1972 年
- 国立国語研究所『日本語教育基本語彙七種 比較対照表』1982 年
- 佐藤信夫『レトリック感覚』講談社、1992 年
- 佐藤靖彦『ロシア語作文・日本の四季：和文露訳の試み』新読書社、1991 年
- 佐藤靖彦『ロシア語作文・日本の風俗：和文露訳の試み』新読書社、1993 年
- 佐藤靖彦『ロシア語作文の基礎』ナウカ、1993 年
- 柴田武・山田進編『類語大辞典』講談社、2002 年
- 副島健作『日本語のアスペクト体系の研究』ひつじ書房、2007 年
- 仁田義雄『辞書には書かれていないことばの話』岩波書店、2002 年
- 源貴志『ロシア語セカンドステップ——基本動詞 60——』東洋書店、2004 年
- 森田良行『動詞の意味論的文法研究』明治書院、1994 年
- 除村吉太郎『露文解釈から和文露訳へ』改訂版、白水社、1967 年
- 吉川千鶴子『日英比較 動詞の文法』くろしお出版、1995 年
- ライズィ『意味と構造』鈴木孝夫訳、講談社、1994 年